

生きる、を支える科学技術

SCIENCE FOR RESILIENCE



防災科研

令和3年度国立大学法人等採用試験 採用説明会

防災科研の事業の紹介について

■ 防災科研のアイデンティティ

生きる、を支える科学技術

SCIENCE FOR RESILIENCE

地震、津波、噴火、暴風、豪雨、豪雪、洪水、地すべり。
自然の脅威はなくなるらない。

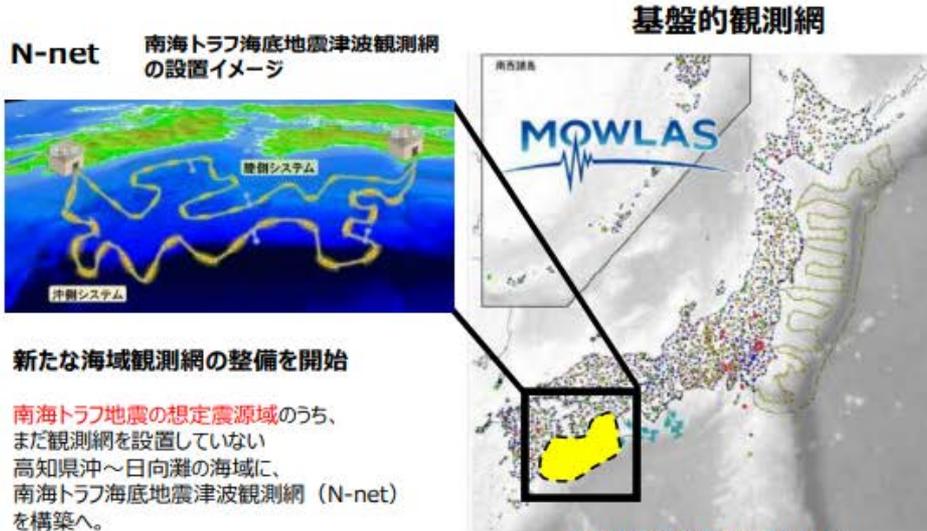
でも、災害はなくすことができると、
私たち防災科研は信じています。
この国を未来へ、持続可能な社会へと導くために。
防災科学技術を発展させることで
私たちは人々の命と暮らしを支えています。

さあ、一秒でも早い予測を。一分でも早い避難を。
一日でも早い回復を。



「生きる、を支える科学技術 SCIENCE FOR RESILIENCE」という価値観のもと、
地震、津波、火山噴火、防風、豪雨、豪雪、洪水、地滑りなどによる
**あらゆる自然災害に対する、予測力・予防力・対応力・回復力の
総合的な向上を図る研究開発を実施**

■ 国を代表する、防災科研の先進技術



新たな海域観測網の整備を開始

南海トラフ地震の想定震源域のうち、まだ観測網を設置していない高知県沖～日向灘の海域に、南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）を構築へ。

全国約2,100観測点から成る
陸海統合地震津波観測網
(MOWLAS)

世界最先端の実験施設

大型降雨実験施設
(茨城県つくば市)

E-ディフェンス
(兵庫県三木市)

実物大3次元震動

雪氷防災実験棟
(山形県新庄市)



局地的豪雨や土砂災害の再現

実大規模構造物の破壊過程の再現

様々な雪氷災害の再現

気象レーダ等観測機器

(茨城県つくば市等)



ゲリラ豪雨などを引き起こす積乱雲の発達を早期に予測することを目的に、水蒸気・風・雲を観測

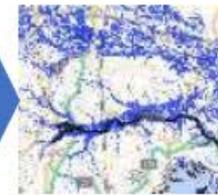
ドローンの活用



衛星データを解析した情報の現場活用



衛星データ



浸水エリア抽出



浸水建物数推定

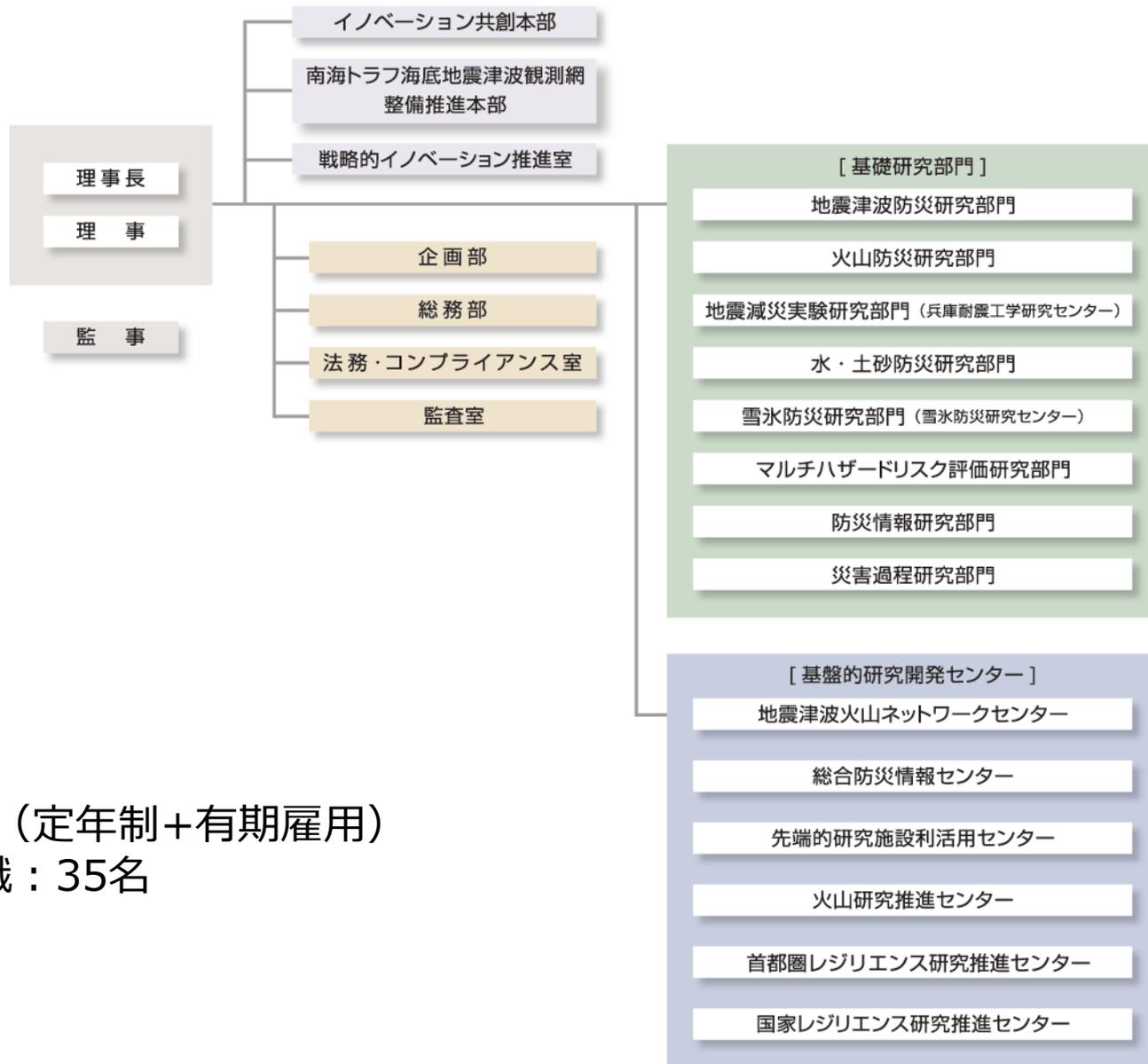


衛星データから被災状況解析を実施



防災科研の組織及び 事務系部門の紹介について

■ 組織

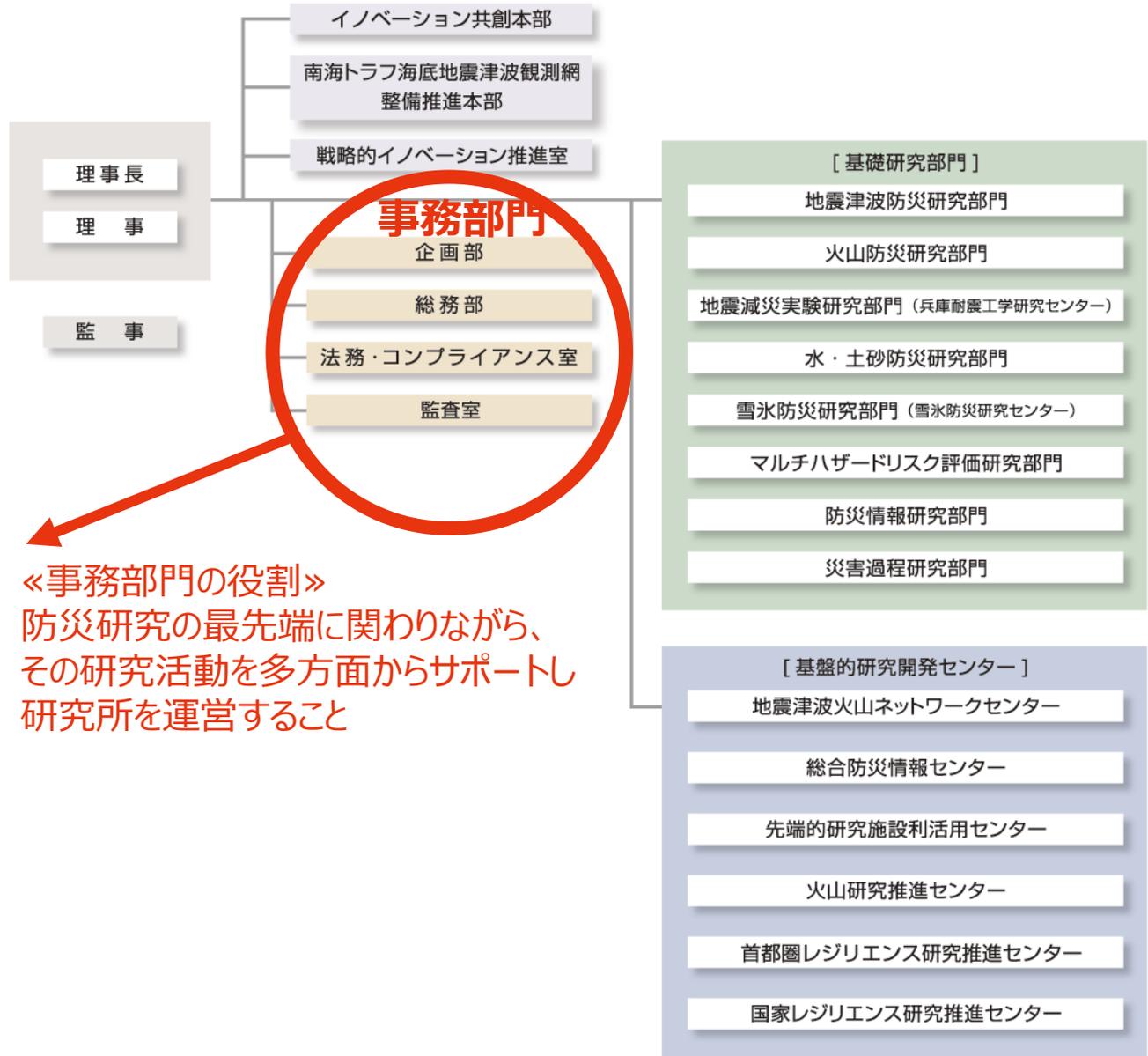


職員数：386名（定年制+有期雇用）

うち定年制事務職：35名

※令和3年4月1日現在

■ 組織



«事務部門の役割»
 防災研究の最先端に関わりながら、
 その研究活動を多方面からサポートし
 研究所を運営すること

■ 組織

事務部門それぞれの業務内容

企画部	業務内容
企画課	予算要求・研究所運営業務・政府要人対応、災害発生時等緊急時における総合調整
広報・ブランディング推進課	広報活動の企画立案、マスメディア・WEBによる情報発信、研究成果の広報支援
国際課	国際関係の総合調整、在外研究員派遣手続き支援
研究推進課	外部資金管理・共同研究や施設貸与の対応
総務部	
総務課	人事・労務・給与・文書・庶務・安全衛生
経理課	財務・資産管理・出納
契約課	物品役務等の調達、発注業務
施設課	所内安全保持・設備等の維持管理業務
ICT統括室	所内ネットワークの管理・運営・情報セキュリティ・情報化推進
法務・コンプライアンス室	リスク管理、内部統制・法律相談・訴訟及び法令に基づく手続き・法令、諸規程等の遵守
監査室	業務監査及び会計監査

定年制事務系職員 国立大学法人等職員採用試験について

■雇用条件について

- ▼採用時期 令和4年4月1日（既卒者は応相談）
- ▼勤務時間 9時00分～17時30分（昼休み45分間 12時15分～13時00分）
※時差勤務制度あり
- ▼初任給 大卒 182,200円程度～ ※経験年数等により加算あり
- ▼諸手当 地域手当（本給の15%）、期末・勤勉手当（賞与）（年2回）、
住居手当（上限28,000円/月）、通勤手当（上限55,000円/月）、
扶養手当等
- ▼社会保険制度 文部科学省共済組合
- ▼休暇 年次有給休暇、夏季特別休暇、育児休暇等
- ▼研修制度 初任者研修、英語研修、Eラーニングによる研修等
- ▼福利厚生制度 送迎マイクロバス（つくば駅・防災科研間 朝4便・夕4便）、
定期健康診断（年1回）、部活動制度等

■ 入所後のキャリアパスのイメージ

年齢目安	役職	年収目安
60歳		定年
		↑
50代	課長	8,700,000円程度～
		↑
40代	課長補佐	6,100,000円程度～
		↑
30代	係長	4,600,000円程度～
		↑
入社	係員	3,400,000円程度～

※勤務成績、業績評価により、昇進を決定される

■子育て支援制度（一部）について

▼産前産後休暇

出産（予定）日の前6週～後8週間の休暇が取得できます

▼出産立会休暇

男性職員の妻が出産する際に、最大2日間の休暇が取得できます

▼育児休業

子供が満3歳になるまでの間の休業が取得できます

▼育児短時間勤務制度

子供が小学校就学の始期に達するまで、1日の就業時間を短時間にして勤務をすることができます

※その他、共済組合や雇用保険からの手当金の支給制度もあります

(令和3年4月1日現在)

■ 採用スケジュールについて

7月29日（木） : 採用説明会

※参加を希望される場合には、koubo@bosai.go.jpまで
「氏名・学校名・連絡先電話番号」を記載の上、お申込ください。
おって、接続方法等をお知らせいたします。

8月5日（木） : 応募締め切り（応募書類必着）

関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験の一次試験
合格者で弊所への応募を希望される方は、弊所ホームページの
採用情報をご確認の上、履歴書を電子メールで提出してください。
※応募の際には必ず弊所指定様式をご使用ください。

https://www.bosai.go.jp/information/tender/recruit/word/rireki_jimu.docx

8月上旬～ : 書類選考・WEB適正検査

※書類選考通過者にご案内いたします。

8月中旬～ : 面接選考

（1次面接：8月18日～19日、2次面接：8月31日に予定）

8月下旬～ : **内々定**

■ よくあるご質問について①

質問	回答
<p>転勤や出向はありますか？</p>	<p>当面転勤はありません。出向については何年か経験を積んで頂いた後に文部科学省等への出向はあります。</p>
<p>ジェネラリスト、スペシャリストのどちらが求められますか？</p>	<p>2～3年毎に配置転換がありますので、様々な部署で経験を積んで頂き、研究所の全体最適を考えられる事務職としてのジェネラリストを目指して頂きます。</p>
<p>被災地に事務系職員が入る場合、どのような仕事をするのですか？</p>	<p>行政機関の災害対策本部等での事務支援や研究部門の事務補助（災害情報のマッピングのサポート等）を主に行っています。</p>
<p>防災科研では研修制度はありますか？</p>	<p>所内新人研修やE-ラーニング、その他外部講師をお招きした研修があります。</p>
<p>新卒の配属先はどこになりますか？</p>	<p>最初は事務部門内の部署へ配置されます。経験をつまれた後は、イノベーション共創本部や戦略的イノベーション推進室等の研究職の方々とより身近な部署にて働いていただくこともあります。</p>
<p>部署の兼務は頻繁にあるのでしょうか？</p>	<p>頻度についてはムラがありますが、必要に応じて兼務を行うことがあります。</p>

■ よくあるご質問について②

質問	回答
異動は自分の希望が反映されますか？	希望のヒアリングはありますが、全体としての人員配置のバランスをとる兼ね合いがあるので、必ず通るものではありません。
新卒に求めるものはなんですか？	上司や周りの先輩職員の話はよく聞き、理解することに努めて下さい。メモは必ず取りましょう。報告・連絡・相談・確認は必須スキルです。そして健康第一です。
月の残業時間はどのくらいありますか？	配属部署や時期によって業務量の波がありますが、繁忙月で25時間～30時間程度となります。令和2年度の所内の1人あたりの平均残業時間は3.75時間となります。
文系でも大丈夫でしょうか？	事務系の業務を行ううえでは問題ありません。配属部署によっては研究の内容にふれる部分もありますが、事務職として求められる水準は、仕事をしていくなかで自然と理解ができる程度となります。
女性は活躍していますか？	事務職員35人のうち女性は9名 まだまだ少ないですが、皆さんが入所して経験を積んで頂くことで、係長や課長補佐、それ以上をぜひとも目指して頂きたいと思えます。

■ 防災科研をもっと知りたい方へ

▼ 防災科研『要覧』・・・

防災科研について、目的や体制などの組織概要や各センター・プロジェクトの研究活動の概要をまとめています。

<https://www.bosai.go.jp/introduction/abstract.html>

より、ダウンロード・閲覧が可能です。

▼ 防災科研『紹介動画』・・・

研究内容や施設などについてご紹介する動画を公開しています

<https://www.bosai.go.jp/introduction/movie.html>

より、視聴が可能です。

皆様のご応募をお待ちしております

問い合わせ先：防災科研総務課 坂田・白石
TEL：029-863-7795
MAIL：koubo@bosai.go.jp